

第九たいむず



No.32 2008.1 .24

通刊 775 担当 鷹味



ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX:027-323-0233(団長渡辺) 携帯電話:090-1828-8052(事務局長小野)

♪住谷先生、三宅さん ご結婚おめでとうございます

【事務局長 あきら】

19日(土)正午から、高崎ビューホテルで二人の結婚式は執り行われました。

出席者全員の前で永遠の愛を宣誓する人前式、立会人の一人は事務局次長の新井祐美子さんでした。

引き続き執り行われた披露宴では、渡辺団長が祝辞を述べられました。二人から始まる幸せの二重唱を、三重唱、四重唱、八重唱と人々に広げてほしいという素敵なものでした。

司会は住谷先生のお兄さんが務め、当団ピアニストの田上先生が伴奏を務められる箇所もありました。会場中のお花の配置やこらした意匠は、華道に長けている三宅さんがすべてプロデュース。BGM など曲づくりは、音楽・音響に長けている住谷先生がすべてをプロデュース。そして健康に配慮されたお料理の数々、披露宴で歌われた曲の数々は、二人が考え抜いたものでした。

会場側に設営を丸投げしてしまうことも多い昨今の披露宴。とても忙しいお二人が徹底的に積み上げてきた時間と、二人のおもてなしのやさしい気持ちが伝わる素敵な披露宴でした。

そこにサプライズ。私たち、第九合唱団の男声有志が秘密裏に集い、加山雄三「君といつまでも」を披露。突然の登場に、事情を聞かされていない三宅さんは終始びっくり。あの名セリフは、もちろん住谷先生！住谷先生と男声陣による新婦三宅さんへのささやかなプレゼントとなりました。

お二人の幸せの門出を無事に祝うことができました。お二人のおもてなしの心に感謝すると共に、駆けつけてくださった男声陣にも感謝いたします。駆けつけることができなかった方達の祝福の気持ちも、男声有志は伝えていただきました。

この合唱団で出会い、結婚された方は、公式記録で4組目です。この合唱団は多くの方が集います。これからも、さまざまな出会いがあるでしょう。みなさんも嫌いな方を作るよりは、好きな方や気の合う方をより多く作っていけるよう出会いを大切に。



駆けつけた
男声有志！
企画成功
万歳！！

披露宴での
場面集。ステ
キです。



♪メイコンサート「ヨーロッパの薫り」(2008年5月18日(日))

1ステージ: イーゴリ公(アレクサンドル・ポルフィーリエヴィチ・ボロディン作曲、ロシア)

2ステージ: 先生方のソロステージ(歌・ピアノなど)

3ステージ: 椿姫(ヴェルディ作曲、イタリア)

♪メイコンサートの楽譜(400円)、練習用CD(100円)

受付にて販売中です。楽譜は買ったらずぐに**楽譜に名前を書いて下さい！！**無くしたときに困るのはあなたです…。

♪第34回第九演奏会のアンケート 展示します

去る2007年12月15日の第34回第九演奏会のアンケートを、適当なスペースに展示します。一束50枚にまとめてあり、アンケート総数は598枚！何とも感動的なコメント、平和への願い、厳しいご意見など、悲喜交々(?)な感想をたくさん頂けました。是非皆さんも直にご覧下さい。なお、決してお持ち帰りにならないようにお願いします。

♪軽井沢合宿の写真、お渡しします

お待たせしました。合宿の写真、購入申込をされた方々に今週から写真をお渡しします。販売担当者ごとの対応となりますので、販売者・購入者それぞれその点を宜しくお願い致します。

♪文化ホールを考えるシンポジウムにて 【テノール 鷹味】

1月14日(月)に高崎総合福祉センターで行われた表題のシンポジウムに行ってきました。出席者を推察するに各ホールの運営者、群響や各団体の会員の方々が大半のようで、その数はほぼ満席(80人弱)という盛況ぶり。関心の高さが伺えました。

前半は栗原一浩氏(武蔵野文化事業団、ホール運営の第一人者として幅広く知られる)による「文化ホールとは何か」の講演であり、①文化ホールには建築・聴衆・政治・運営の4つの分野の集合体である、②ホールの重要な役割の一つとして、あまり知られていないものを紹介できる場であること、③②の「あまり知られていないもの」とは必ずしも大規模な催しではないので、多種多様な小さな催しができるように小ホールにももっと目を向けるべき、以上3点が印象に残りました。

後半は渡辺和彦氏(音楽評論家、クラシック音楽分野で活躍)、下山直記氏(桐生音楽文化協会、ポピュラー音楽分野で活躍)、長谷川伸子氏(株コンツェルト・ハウス・ジャパン、音楽プロモーター)、友岡邦之氏(高崎経済大学准教授)、以上4人のパネリストを加え、群馬音楽センターの今後について様々な切り口で考えを出し合いました。この場ではブレインストーミング(どんな意見に対しても批判・否定は行わず、数多くの意見を出すという方針のこと)的な話し合いを行い、この中での結論も出さないやり方であったため、なかなか幅広い意見が次々と飛び出し、「理想的には、音楽センターを保存し、新ホールまたは新複合施設を建設」、「地域住民に愛されるホールである必要がある」、「新しいホールを建設する企画を立てる際に、群響・音楽センターについて漠然と**良い・価値がある**と思っている人が多いかどうか(人々の心の中でいい印象が残っているかどうか)が重要」、はたまた「音楽センターの改造を考えるならばプロレスなどの格闘技用としても可能」など、收拾をつけないからこそ面白い討論となりました(個人的には音楽センターで K1! またはボクシング!! 見てみたいですね。燃えます!!)。

ただし、この場での音楽センターに対する意見の傾向としては、①音楽センターの取り壊しは建築物としての価値や歴史の観点からあまり考えられない、②音楽センター以外に群響のホームとなる施設が必要、との見解が強いように感じられました。その他、他分野・県外から見た群響の評価と価値、全国の文化ホールの成功例など、滅多に聞けない意見も聞けました。

群馬音楽センターの今後については、私達にも直接関わる重要な事項です。私達一人一人がどうこうできることではありませんが、関心を持ち自分なりの見解を持っておくことが大切なのではないかと考えさせられたシンポジウムでした。